

第3回北海道SDGs推進懇談会 議事録

日時：平成30年10月22日（月）14：00～

場所：道庁本庁舎7階共用会議室C

【出席者】

○構成員：有坂 美紀、大崎 美佳、柏村 章夫、小泉 雅弘、定森 光

清水 誓幸、菅原 亜都子、鈴木 昭徳、野吾 奈穂子、吉中 厚裕

【五十音順、敬称略】

【10名出席】

○北海道：谷内計画推進担当局長、石川計画推進課長、渡邊計画推進課主幹

（石川計画推進課長）

皆さんこんにちは。御案内の時間になりましたので、ただ今から第3回目の北海道SDGs推進懇談会を開催させていただきます。本日は、本当にお忙しいところお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。前回の懇談会の開催結果でございますが、道庁のホームページで公開させていただいています。今日の懇談会の開催状況につきましても、皆さんにご確認させていただいたのち、道庁のホームページで公開させていただく予定ですので、御承知おきをよろしくお願いいたします。今日の懇談会でございますが、概ね16時までを目処に開催させていただきたいと考えていますので、御協力をお願いいたします。それでは、開会にあたりまして、谷内計画推進担当局長から御挨拶をさせていただきます。

（谷内計画推進担当局長）

計画推進担当局長の谷内です。今日はお忙しい中、第3回目の懇談会に御出席いただきまして、ありがとうございます。本日は、先月に私どもの方で取りまとめましたビジョンの原案について、御議論いただきたいと思います。皆様方からの御意見ですとか、あるいは、知事の附属機関であります北海道総合開発委員会の御意見、こうしたものも参考にしながら、ビジョンの原案の取りまとめを行ったところでございます。この後、来月中には、最終案として取りまとめ、年内にビジョンとして決定をしていきたいというようなスケジュール感を持っているところでございます。この懇談会での御意見、あるいはパブリックコメントでもかなり御意見をいただいていますし、市町村からも御意見をいただいたところです。そうした御意見をできるだけこのビジョンの中に反映させながら、最終案を取りまとめに行きたいと思っております。皆様方にはこの懇談会だけではなく、それぞれの立場で会議等を開いていただき、今日もまた多くの資料を提出していただけるということですので、また忌憚のない御意見をいただきながら、取りまとめ作業にあたって行きたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(石川計画推進課長)

それではここからの議事の進行につきましては、座長の吉中先生にお願いしたいと思いません。

(酪農学園大学・吉中 厚裕)

皆様どうぞよろしくお願いたします。下川町の木原さん以外、全員出席ということで、皆さんの熱意の表れかと思っております。お忙しいところお集まりいただきまして、どうもありがとうございます。今日の議事はお配りされているとおりでありますが、まず、原案についてということで、今まで骨子案というのが、会議が始まる前に一応出来上がっていて、それを見ながらざっくばらんに色々御意見をいただき、補完し合いながら意見を道庁に伝えるということでやってきたと思っております。今回、それを原案という形でまとめていただいておりますので、今日は是非、具体的な原案の中身について、御意見をいただいて、懇談会として意見を出していきたいと思っておりますので、どうぞ御協力よろしくお願いたします。できるだけ16時に終わりたいと思っておりますので、ポイントのついた厳しい御意見をいただければ、ありがたいなと思っております。今、課長の方からもお話しいただきましたが、皆様から色々な資料を共有していただきまして、どうもありがとうございます。今まで、ボクシングでいうとシャドーボクシングのようなことをずっとやってきましたが、本日は原案という形で、ようやく相手のプロフィールがはっきり分かり、具体的にどのようないいゲームにしていけばいいかということを考えるタイミングかと思っております。そういうことで、私の提案としては、事務局から資料の説明をいただいた後、この策定のプロセスとして非常に重要な要素になってきていると思っておりますが、グループ別のビジョン提案ワークショップというものを5回程開催していただいておりますので、その概要のようなものを御紹介いただきたいと思えます。資料の中にはそれぞれのミーティングごとに、「何ページのこの箇所を修正」といった具体的な御提案、あるいは、小泉さんのまとめていただいた資料には、全体のワークショップを通じての、「ビジョン原案の1のこの箇所に明記」といった具体的な御提案をいただいておりますが、その具体的な部分は後ほど、道庁から原案について簡単に御説明いただいた後、順々に議論していくというような形にしたいかと思っております。それでは最初に、皆様も既にお目通しいただいているかもしれませんが、ビジョンの原案について、道庁の方から御説明いただくということでよろしいですか。よろしくお願いたします。

(渡邊計画推進課主幹)

計画推進課の渡邊です。私の方から、事務局の方で用意させていただきました資料1から資料4について、簡単に説明させていただきます。資料1につきましては、これまで懇談会でいただいた意見を基に道の方で取りまとめさせていただきましたビジョンの原案になります。資料2につきましては、前回の第2回目の懇談会において、吉中座長におまとめいただいたこれまでの議論での御意見を、ビジョン原案の中でどのように反映したか、また、反映できなかった場合は、どういう考えなのかということについて、取りまとめた資料でございます。資料を合わせて御覧いただければと思えます。それでは、資料1の原案について、簡

単に説明させていただきます。ビジョンの全体の構成、「ビジョンの基本的な考え方」、「北海道を取り巻く状況」、「北海道めざす姿と優先課題・対応方向」、「ビジョンの推進」という4つの構成については、骨子から変わっておりません。「ビジョンの基本的な考え方」につきまして、ビジョン骨子でお示したところから大きく変わったところとしましては、2ページから8ページにかけて、「(4) SDGsの概要等」として、SDGsとはそもそものようなものかということから、SDGs推進で期待される効果、それぞれの主体がどのように取り組んでいけばいいのか等について、事務局としてできるだけ分かりやすく記載しました。次に、9ページ以降の「北海道を取り巻く状況」についてですが、「(1) 北海道の現状・課題」としまして、9ページから32ページまで書いております。SDGsに詳しくない方、初めて読まれる方でも分かりやすくなるようにと考えまして、「生活・安心」、「経済・産業」、「人・地域」という3つの分野から、それぞれ5、6個ずつ、全部で15の区分を行いまして、北海道の現状や課題というものを表やグラフを活用し、可能なものは時系列でお示しながら、また、それぞれの区分をSDGsのゴールと照らしながら、北海道の現状と課題を整理させていただいております。33ページから42ページには、「(2) 世界に誇れる北海道の価値と強み」としまして、SDGs推進に貢献していくために、北海道が持っている8つの価値や強みとその活用方法について、SDGsの関連するゴール等に照らしながらお示ししているところでございます。次に、43ページ以降の「3 北海道のめざす姿と優先課題・対応方向」についてですが、「めざす姿」については骨子案のとおり「世界の中で輝きつづける北海道」としてありますが、その説明において、「世界の中の北海道」としての存在感を高めながら、誰一人取り残さない、将来にわたって安心して心豊かに住み続けることができる地域社会を形成していく」としてあります。また、前段までで整理させていただきました、北海道の危機や可能性、SDGsの推進で期待されること、「めざす姿」の考え方などについて、詳しく記載させていただいております。44ページ以降の「めざす姿」の実現に向けた「優先課題と対応方向」については、前回の懇談会までに事務局からお示しさせていただいたとおりですが、48ページ以降に、詳細な記載を対応方向ごとに書いておまして、企業や団体、市町村といった多様な主体の皆様が今後、SDGsの推進に取り組んでいただく際の参考となるような多数の取組例、また、道の取組例なども併せて、紹介させていただいております。SDGsを推進する上で、その目標や達成状況を分かりやすくするために設定している指標につきましては、SDGsのゴールやターゲット、指標、「自治体SDGs指標検討委員会」が提案するローカライズ指標などと照らし合わせながら、「経済社会の状況や道民の暮らしの状況を表すアウトカム指標」や「都道府県順位の把握や全国平均値との比較ができる指標」、「原則、毎年または隔年で公表される指標」といった要件に沿いまして、その中から入手可能な指標を設定しています。以下、79ページまで、対応方向ごとに取組方法を記載しております。80ページ以降の「4 ビジョンの推進」についてですが、「(1) 各主体の取組」としまして、道内の各主体の皆様が自発的な取組を推進していただく際に参考となるように、期待される取組を事例として記載させていただいております。「(2) 推進手法」につきましては、8月に道の方で全道的な組織として立ち上げさせていただきました、「北海道SDGs推進ネットワーク」の活動などを通じて、多様な主体による取組の裾野を

広げていくとともに、国からSDGs未来都市に選定されたということも受けまして、推進本部の下に、多様な主体と連携を図りながら、幅広い分野や地域で取組を推進していくということとしております。次の82ページ、「(3) 推進管理」としましては、ネットワーク組織の活動などを通じて、道内における取組状況を把握し、情報発信をしていくとともに、道の取組につきましては、政策評価を通じて、推進状況を取りまとめ公表していくこととしております。また、経済・社会情勢の変化や道内外の動向などを踏まえて、多様な主体の参画の下、幅広く御意見を伺いながら、必要に応じて見直す旨、記載しております。資料1と2につきましては、以上です。資料3といたしまして、知事の附属機関であります「北海道総合開発委員会」が8月20日に開かれました。その際に、有識者や地域代表の方に、SDGsを切り口にした御議論をしていただいております、主な発言内容をまとめた資料が資料3でございます。道としてSDGsを推進するにあたっての考え方や、各分野や地域における持続可能な地域づくりについて、様々な御意見をいただいております。こちらにつきましても、ビジョン原案の取りまとめにあたって参考とさせていただいているところです。資料4につきましては、資料4-1がパブリックコメントでいただいた意見の一覧でございます。4-2につきましては、同時に行いました道内各市町村に対する意見照会の結果を取りまとめたものでございます。パブリックコメントの実施に当たりましては、先に設立した「北海道SDGs推進ネットワーク」の会員や道庁各部を通じて、380の関係団体にパブリックコメントの実施について周知し、御協力をお願いしたところです。また、市町村については、各振興局から全市町村に意見照会をしているところでございます。市町村意見とパブリックコメントを併せまして、計69件の御意見をいただいたところでありまして、この御意見や本日の懇談会の御意見などを踏まえまして、11月中下旬頃までに最終案を取りまとめて、年内にビジョンを策定してまいりたいと考えております。以上です。

(酪農学園大学・吉中 厚裕)

ありがとうございます。中身についての御意見・御議論は後ほどということにしたいと思います。御説明いただいた資料が足りない、この部分は少し説明が分からなかったなど、そういうことがございましたらお伺いしたいと思いますがいかがでしょうか。本体が結構なページ数となっており、その他にも重要な資料を付けていただいておりますが、いいでしょうか。それでは、議論の中で御不明な点が出てきたらお伺いするというので、先に進めさせていただきたいと思っております。次に、先ほど私から申し上げたとおり、この懇談会のメンバー中心に、策定のプロセスとして非常に重要な要素になっていると考えておりますが、「2030年のほっかいどうを考える」ミーティングというものが計5回開かれて、さらにパブリックコメントのためのワークショップも開かれたということもありますので、できればそれぞれのミーティングの概要等について、それぞれから簡単に御説明いただいて、それから本論に入っていこうかと思っております。まず、手元でございます、小泉さんがまとめていただいたグループ別ワークショップ全体の概要、その裏に具体的な提案がありますが、できればその表面の5つのミーティングの概要を御説明いただいて、その後補足していただく部分があれば、各ミーティングを担当された方から御説明いただくという形にしようかと思っております。

「このページのこの箇所をこう書き直した方がいい」といった具体的な御提案等は、後の章ごとの議論でしたいと思いますので、御理解いただければと思います。よろしいでしょうか。では、小泉さんお願いしていいですか。

(さっぽろ自由学校「遊」・小泉 雅弘)

たくさん資料があり、分かりにくいかもしれませんが、「グループ別ビジョン提案ワークショップ実施の趣旨と概要およびそれを踏まえた提案」という資料があると思います。1ページに趣旨と概要の部分がある資料です。簡単に紹介します。まず、なぜこのようなグループ別ワークショップを呼びかけてやることになったかということですが、そもそもの初めの骨子案の段階から、北海道の方からいただいているこのビジョン案というものが、多様なステークホルダー、途中から主体に変わりましたが、多様なステークホルダーが互いに共有する基本的な指針としてビジョンを制定するということが前提となっていました。おそらくこれまでの持続可能な開発を巡る議論を踏まえてそうなっていると思いますので、基本的にそのことを歓迎したいと思っています。歓迎した上で、今まで、私などがずっと言ってきたことと重なりますが、「多様なステークホルダーが互いに共有する基本的な指針」となるためには、この策定のプロセスにおいて、多様なステークホルダーが参画するということが前提条件になると思います。国連のSDGs策定もそうですが、もう少しさかのぼれば、1992年のリオサミットで「アジェンダ21」という行動計画が策定されて、その時から持続可能な開発を進めていく上では、多様なステークホルダーの参画のプロセスが重要であるということが強調されています。その中心となるのが、ここでも何度か言いました9つのメジャーグループだと思っています。そのメジャーグループについて、「アジェンダ21」という約300ページの文章、4部構成くらいの文書の1部は、9つのグループの役割ということに割かれているわけです。それくらい持続可能な開発を議論する上で、それらのグループの参加が前提となっているということです。ですので、本来ならば、これまでの議論にグループのしっかりとした参加というプロセスが必要だと思っていて、「このスケジュールでは難しいだろう」という話を何度もしましたが、「スケジュールは変えられない」ということなので、これは当初から考えていたことですが、道庁さんだけでは多分できないので、懇談会の有志でできそうなところだけでも、原案の段階でビジョンの提案をするワークショップを、ボランティアといいますか、持ち出しで開催しました。時間がなかったということもあり、中々、準備が十分に出来なかったところもありますし、必ずしも人数が多いものだけではなかったと思いますが、それでも5つ、パブリックコメントも入れると6つ、主体別という意味では、女性、ユース、アイヌ民族、CSO（市民社会組織）という4つのグループでやり、経済というテーマに沿って1つやりました。その他、パブリックコメントのためのワークショップをやったということです。それぞれについては、それぞれから報告してもらいたいので、順番にお願いしたいと思います。女性からお願いしてもいいでしょうか。

(さっぽろ青少年女性活動協会・菅原 亜都子)

「Women's Meeting」ということで、本日、追加でお配りした資料を御覧ください。おそ

らく一番下に付いているかと思えます。「「2030年のほっかいどうを考える Women's Meeting」から考える「北海道SDGs推進ビジョン」への提案」ということでお配りしています。女性グループということで9月26日の午前中と夜間に2回実施しました。結果についてはここに記載しているとおります。ワークショップの進め方としましては、他のグループのワークショップと同様に、2030年の北海道に、どのようなことを増やしたいか、減らしたいか・無くしたいか、そして、変わらずにあって欲しいことは何かという3つのテーマで聞き、参加者からたくさんの意見を出していただきました。その結果を、午前の部と夜間の部で2つの表に分けて記しております。この表の中で黄色く塗りつぶしている部分は、ジェンダー平等に直接的に関わると思われるところです。この作業を行った後、色々考えているうちに、黄色の部分が、増やしたいものよりも無くしたものに多いということに気がつきました。無くしたいものとして語られる時に、女性達が自分の経験を思い出すようにお話されていたのがとても印象的でした。例えば、働いている時に嫌な思いをしたこと、もしくはパートナーとの関係で理不尽な経験をしたことなど、そういった自分の悔しかった気持ちや腹立たしかった経験をお話されていたというのが凄く印象的でした。そこから感じたことですが、女性の声をビジョンに反映されるということは、凄く丁寧なプロセスが必要だというふうに感じました。女性達が昔、自分達の権利を勝ち取る時にキャッチフレーズとして使っていた言葉で、「The personal is the political」という言葉があります。「個人的なことは政治的なこと」というキャッチフレーズで、フェミニズムの女性の先輩達は戦ってきましたが、やはり女性達の課題というのは、「私が我慢すればいい」だとか、「凄く個人的なことであって世の中に訴えることではない」だとかというふうに思いがちだと思います。それをワークショップという形で、安心な場でやったからこそ、皆さん自分の経験をお話くださって、是非ビジョンに反映させて欲しいと色々な経験を語っていただけだと思っています。それから是非、今後のビジョンについてお願いしたいと思っていますのが、今後このビジョンを下に、実際の取組を行い、評価をして、ビジョンをみんなで育てていくというようなことをしていくと思いますが、今回のワークショップのように、できれば丁寧な聞き取り、「あなただけの問題だけではなくて、北海道全体の問題ですよ」、「あなたが幸せになることが、北海道全体がハッピーになることですよ」というような丁寧な聞き取りをしながら、このビジョンを女性も男性も一人一人が自分事と考えられるような丁寧な育て方をしていくということを、推進体制のところに入れていただきたいということを、この提案書に書いていますので、よろしくお願ひします。以上です。

(さっぽろ自由学校「遊」・小泉 雅弘)

それでは、一応順番にいきます。「the Ainu people's meeting」という、アイヌ民族の集まりを9月27日の夜にやりました。これは、RC E道央圏のメンバーでもある札幌アイヌ協会の方に協力をお願いしたところ、札幌アイヌ協会の学習会という位置付けでやっていただき、12名程の参加を得ることができました。この会はある意味、凄く画期的だったのではないかと考えています。アイヌ協会などアイヌのグループはありますし、アイヌの政策というところで集まり、意見を聞く場というのはこれまでも色々あったと思いますが、

もっと広い意味での、SDGs、持続可能な開発という社会を包括するようなテーマの中で、アイヌ民族のメンバーだけで集まって意見を出し合うということ自体が、私は画期的ではないかと思っています。このときは、重鎮の方といいますか、年齢の高い方も来ていましたし、若い人も何人か来ていましたけれども、女性のワークショップと同様に、無くしたいこと、変わらずにあって欲しいこと、増やしたいことということ、自由に意見を出し合ったような形式です。それをまとめた資料が一つあります。全体として言えるのは、別にそういうことを求めた訳ではないですが、アイヌ民族が元々持っている価値観や世界観、精神というものはまさに持続可能な開発の精神に合致している、そしてそれをアイヌだけではなく、全ての人に広げていくというようなスタンスの意見がとても多く出されました。もちろん、自然との関わり方や今の環境汚染の問題といった意見もたくさん出されましたし、教育についても、所謂学校教育ということだけではなく、家庭内での文化の伝承や、子や孫に対してのコミュニケーションの重要性なども含めて、教育の課題ということも出ていたと思います。他にも、経済的なことで、貧困や差別の問題、経済的自立、そのための権利の回復ということも出ておりました。印象に残ったこととしては、初めは「なんだかよく分からない」と言われていましたが、最終的には、「こういう集まりは凄く重要だ」と、「もっと若い人達にも今度は参加してやってもらいたい」というような意見が、所謂フチと呼ばれるおばあさんの方から出ていました。そういう意味でも良かったと思っています。今回は札幌アイヌ協会なので札幌のメンバーだけですが、当然、本来は道内各地でこういうワークショップができればいいなというふうに思っています。

次に、CSOミーティングについてです。CSOという言葉は知らない人も多く、呼びかけ方としては失敗したな…と思っていますが、市民社会組織という打ち出しで10月6日にやりました。NGO・NPOというような呼びかけでもよかったのですが、意図としては、自分がNGOやNPOだと思わずに市民活動をやっている人もいますので、そうした人にも参加して欲しかったということがあります。参加人数は十数人でしたが、人数よりも意見の方がたくさん出たという感じで、もの凄くたくさんの意見が出ました。このときは3時間と、割とゆったりとした時間の中で行ったので、共通の減らしたいこと、残したいこと、増やしたいことということ、初めにやった上で、「北海道のあるべき姿」(ビジョン)として、「〇〇な北海道」ということをたくさん出してもらいました。たくさんあり、ただ羅列すると分かりにくいので、後から私の方でなんとなく3つくらいに項目にまとめました。まず、「皆さんよく分かっているな」というのも変ですが、SDGsの「誰一人取り残さない」という前提を踏まえていると思いました。脆弱な人々のニーズを満たすとか、全ての人の人権を守るとか、子ども、障がい者、外国籍の人、アイヌの人達、そういった人達の権利を守っていくということ、女性に対しての話といった、所謂人権や包摂というテーマがたくさん出されました。また、自然環境との関わりということで、エネルギーの問題もたくさん出されていて、減らしたいことの中では、原発については5人くらいから出ていて、参加者の半分くらいの方が原発はいらないということを挙げていますし、原発だけではなく、再生可能エネルギーなら何でもいいというものではないということも言われてました。これは今、さっぽろ自由学校「遊」でもそのような講座をやっていますが、大型のメガソーラーや風車が乱

立するような今の状況などは、地元の人達にとってかなり危機的な状況なわけですが、その再生可能エネルギーにしても、何でもいいというものではないというような意見も多く出されていたと思います。それから、私がこの場で言っていることとも共通しますが、自治、参加といいますか、自分達で決めるといった広い意味での政治のあり方のようなことや教育のあり方ということも結構出ていたかと思います。以上です。次にユースをお願いします。

(北海道環境パートナーシップオフィス・大崎 美佳)

ユースとパブリックコメントのワークショップの二種類の開催報告を皆さんにお配りしています。ユースに関しては、札幌開催で24名の方が参加していましたが、旭川の学生さんとも繋がることができ、サテライトという形で旭川開催もできました。下は中学1年生から、上は50代くらいの方が混ざっていましたが、基本的には大学生の方が中心に来てくれたと思います。色分けなどは全然できていないままなので、少し見づらいかもしれませんが、ユースの全体的に言えることとしては、自分の身近なことを多く書いていたということが一つ挙げられます。例えば、北海道のおいしい食べ物のことや雪のこと、北海道といえば農業や自然ということが多かったと思います。もうひとつユースの特徴として、交流の場が欲しいという意見が多く出ていました。同世代もそうですが、他世代の方と話す場が欲しいという意見も多かったことが、ユースの特徴ではないかと思います。その他にも、国際協力に興味があるので、そういった若者が増えて欲しい、一緒に活動できるような仲間が増えて欲しいという声も上がっていたなと思っています。どちらかというと、社会問題というよりは、自分と近いところでこういう北海道であって欲しいというような意見が多く、北海道が大好きということが伝わってきました。参加者の半分近くが道外出身者ということも関係あるかもしれないですが、北海道が好きで、自然や食といったものを残していきたい、増やしていきたいという声があったと思います。また、旭川開催はよかったとっていて、3ページ目の下の表が旭川の意見です。「北海国」ということで、「独立をせよ」というような議論をしていたようです。札幌と意見が全然違って、後から旭川メンバーに札幌との意見の違いはなぜと話を聞いてみると、危機感が旭川にあるのかもしれないと旭川の学生が言っていました。やはり住んでいる地域によって考え方が違うということが見えたことがよかったと思っています。次に、パブリックコメントのワークショップについてです。これは、グループ別ミーティングとは別の趣旨で、EPO北海道として主催しました。道庁さんの方でパブリックコメントを10月10日までやっていましたが、パブコメに意見を出すといっても一人でこの分厚い原案を読むのは苦しいので、興味を持っている方が集まり、原案を読み、意見交換を行うことで、原案について理解を深めていくという趣旨でした。良ければパブコメの方にも意見を提出してみてくださいというもので、これ自身がパブコメを提出したというものにはなっていません。資料を御覧いただくと、原案の概要を大きく張り出し、気になるところや質問事項などを自由に書いていくという形式でやらせていただきました。人によって見る視点は全然違い、色々な意見を書いていた。SDGsのアプローチとは一体何かといった細かい話しから、道庁の計画自体が多すぎるのではないかといった意見があ

りました。人によってばらばらではありますが、こういった形式で一つ、ビジョンに対する意見やコメントという部分で行いましたので、今回は皆さんに参考までにお配りさせていただいております。これについては、他のパブコメに出す方の参考になればということで、EPO北海道のホームページ等でも広く公開しているものになっています。以上です。

(さっぽろ自由学校「遊」・小泉 雅弘)

次に、経済のミーティングについて、清水さんお願いします。

(中小企業家同友会・清水 誓幸)

経済のミーティングを10月11日に行いまして、まず冒頭に、こちらの資料に「産学官協働アンケート」がありますが、北海道の中小企業にSDGsに関するアンケートの結果について山中教授より御報告いただきました。このアンケートについて簡単に説明してしますと、人権に対する意識が中小企業には薄いという結果が表れており、労働に対する慣行について、必要ではあるが取組が遅れているということ、取組がされていないというようなことが出てきていました。こういうような結果が表れてきた上で、グループ討論を4つのグループで行いました。4つのグループには、それぞれ自分達で課題を出してもらい、「飢餓をゼロに」(ゴール2)やワーク・ライフ・バランスに対する課題を議論したグループ、SDGsに企業が取り組むきっかけについて議論したグループ、ジェンダー平等の実現や「働きがいも経済成長も」(ゴール8)というテーマで議論したグループ、そして、SDGsの理想と現実のバランスをどのように取っていくのかということについて議論したグループ、この4つのグループがありました。2時間という中でのワークショップで、中々、深掘りが進みませんでした。色々な話題が出ていました。飢餓の問題に関連してフードロスのこと問題であるということ、経済の持続と環境の保護は両立していかなければならないということ、時間外労働についての問題点、親の介護や病気があることを隠しがちになっている社会ではないかということ、「誰一人取り残さない」という理念を、「働きがいも経済成長も」という取組の中にどのように繋げていけばいいのかとクエスチョンになってしまい、そこから中々進まない感じであるということ、そして、女性の管理職が少なく、単身赴任が多いということが、行政だけではなく企業でも多く生まれていて、そういうことが色々なものを破壊していたり、我慢させていたりすることに繋がっているのではないかとということなど、たくさん話題が出ておりました。初めて会った方達なので、この1回だけでは出し切れていないと思います。また、多様な方達がいらっしゃいました。経営者の方もいれば、教諭の方、会社に務めている方もいらっしゃいましたので、1回で話しを1つに落としていくことは難しいなと思いました。しかし、終わった後の懇親会や翌日にいただいたメールでは、非常に気づきがありました。自分では中々できないことでも、会社単位でできることが今回をきっかけとして見つかったという話を伺いました。どんなことかということ、ペットボトルのリサイクルを自分の家だけで取り組んでもたかがしれているが、20人、30人いる自分の会社の皆で持ち寄って、会社単位で取り組めば上手く進むということに気づいたということでした。「このワークショップに出て気づきました。ありがとうございます。会

社に提案したら会社も非常に喜んでくれて、従業員もすぐに喜んで、受け入れてくれました。」というような話しを聞きました。このようなワークショップ、気づきができる場を継続して続けていくことが必要なことかと思いました。こういうワークショップを誰と出来るのか、誰と行うかということを考えながら、今回を期に継続できたらいいなと思っています。そして、原案に対する部分については、この6ページにわたって書いた物、原案と対比して書いていますので、後ほどのところで説明させてもらえればと思います。以上です。

(さっぽろ自由学校「遊」・小泉 雅弘)

ありがとうございます。最後に一言加えたいこととして、関心したといえますか、渡邊さんはおそらく全部のワークショップに参加されています。私も含めて、懇談会のメンバーで全て出た人はいないと思います。渡邊さんが一番全体像を把握しているのではないかと思いますので、そこで受け取ったことを是非反映させていただければと思います。以上です。

(酪農学園大学・吉中 厚裕)

どうもありがとうございます。今、御紹介ありましたが、全て出られたということで、渡邊さんから補足したいことはありますか。大丈夫でしょうか。

(渡邊計画推進課主幹)

皆さんが説明したことに大体入っていると思います。

(酪農学園大学・吉中 厚裕)

皆さんが仰っていたのは凄くいい会だったということと、1回では中々終わりきらないので、こういうプロセスを続けていくことが必要だということかと思いました。そして、ワークショップでも具体的な様々な提言が出てきていると思いますので、さっそく原案に沿って皆さんの意見をお伺いしたいと思います。しかし、1行・1ページずつ、文言一つずつという訳にはいかないと思いますので、この目次で言いますと、大きく4つの章がありますので、大まかにそれに沿った形で、基本的な考え方の部分、現状の各部分、今後の方向性の各部分、そして、実際の推進のあり方の部分というような目次立てに沿って、今のミーティングからの御意見でも結構ですし、各委員からの御提言でも結構ですので、順不同でお伺いしていければと思います。ではまず、「1 ビジョンの基本的な考え方」というところで、原案では大分書き下していただいていますので、ここの部分で意見をいただければと思います。順不同で伺いたいと思いますが、まず、ミーティングの結果当たりから何か出てきた御意見はどうでしょうか。

(さっぽろ自由学校「遊」・小泉 雅弘)

結果といえますか、開催した痕跡を残したいということで、ワークショップの実施を踏まえた提案の一つとして、「基本的な考え方」の中に、グループ別ワークショップを開催したということ、ビジョン策定までのプロセスとして書き込んでいただきたいと思います。繰

り返しになりますが、ビジョンの中身も重要ですが、どのように策定したのかというプロセスが持続可能な開発の議論では中身と同じくらい重要だと思います。もちろん、この懇談会やパブリックコメント、色々な団体からの意見徴収ということもプロセスですけれども、懇談会の呼びかけで行ったグループ別のワークショップをプロセスの中に書き込んでいただきたいと思います。今回開催したのはグループとして4つ、テーマも入れて5つで、十分ではないとっていて、あと半年あれば9つ全部できたとも思っていますが、少なくともそういう意見を取り入れるプロセスを行ったということを入れて欲しいと思います。

(酪農学園大学・吉中 厚裕)

今日、共有いただいたレジュメがありますが、これそのものを付けるといったことまでは考えてはいないですか。

(さっぽろ自由学校「遊」・小泉 雅弘)

あまり全体で共有してはいないですが、付けられるのであれば、付けた方がいいのかもしれない。逆に言うと、しっかり反映されていれば、付けなくてもいいと思います。

(酪農学園大学・吉中 厚裕)

策定のプロセスについて、しっかりと明記すべきという御提案です。他にありますか。

(中小企業家同友会・清水 誓幸)

6ページ目です。私の意見書の前半部分を一緒に見てください。6ページ目の3行目に「企業がSDGsへの取組をアピールすることで」という文章が書かれていますが、ここについて意見があります。持続可能な社会に向けたバランスの良い取組であるかどうか、現段階で審査する機能がありません。一部で取り組んでいることも、違うところでは持続に反しているということもあり得る話しです。SDGsのウォッシュの概念もあるので、このような現状においては、慎重な対応も求められると考えています。ですので、「企業がバランスのとれたSDGsの取組を続けることで、企業イメージの向上」と変えるべきだと考えました。アピールと書くのは、まだ非常に危険だと思います。また、その下の部分、7行目以降に「企業がSDGsに取り組むことで、フェアトレードを取り込んだ持続可能なサプライチェーンが創出され、ビジネスによって貧困や人権に課題を解決することが期待される」などの明記が必要だと思いました。この部分については、前の5ページにも「ビジネスチャンス」と書かれていますが、僕としては「チャンス」という言葉も変えて欲しいくらいです。チャンスと捉えるのか、いい言葉があまり浮かびませんが、ビジネスというものではないと思っています。やらなければならないものなのです。事業の中にどう取り入れていくか、事業価値の中にどう取り入れていくか考えていく必要があります、それをアピールする、チャンスにするということになると、厳選なSDGsの進み方ができている企業ということを誰が見るのかということになってくるかと思いました。以上です。

(酪農学園大学・吉中 厚裕)

ありがとうございます。チャンスというよりむしろ責任という感じですね。その他、何かありますか。有坂さんから資料をいただいています。このところではないでしょうか。

(RCE北海道道央圏協議会・有坂 美紀)

資料を見ていただきながら、意見を述べさせていただきたいと思います。私が作った提案書の2ページ目、目次についてです。もしかしたら次のテーマになるかもしれませんが、先に言わせていただきますと、「北海道を取り巻く状況」が「北海道の現状・課題」という部分と「世界に誇れる北海道の価値と強み」という部分の2つに大きく分かれています。価値と強みの部分は非常に具体的で分かりやすく書かれている一方で、現状・課題の部分はかなりシンプルに書かれています。中身を見ると、「健康・福祉」、「環境」、「安全・安心」と言った区分で書かれていますので、これをきちんと前に出すことで、「北海道の現状・課題」の部分が目次を見て分かりやすくなるかと思います。できれば、価値と強みのような説明文も入るような形で記載していただければいいかと思います。少しバランスが悪いような気がしました。それが一つ目の提案です。二つ目、「ビジョンの基本的な考え方」について、もう少しSDGsの説明をきちんとしていただいた方がいいかと思います。作っていただいたものの中身を見ると、骨子に比べて非常に色々な要素を入れていただいているとは思っていますが、この基本的な考え方の中に何回もSDGsの要素や意義といったことが書かれています。それが一体何を示しているのかということ、もう少し丁寧に説明をいただく方が見る方も分かりやすいのではないかと思います。コラムのような形でもいいので、SDGsの意義の説明を入れていただくといいかと思います。これは私の抜き出したところなので、皆さんからも御意見があれば是非いただきたいと思います。SDGsが目指すものについては、アジェンダの中に書かれていることをそのまま掲載するのが一番妥当かなと思います。まず意義の説明という部分です。その後、SDGsの要素の説明として、5つのPが大切だということが言われていますが、ビジョンにはそこが入っていなかったと思うので、これもきちんと入れていただければと思います。なぜSDGsが必要なのか、なぜSDGsが出てきたのかという背景の、最も重要な部分になると思いますので、ここを是非入れていただきたいです。国連が作ったこの図は分かりやすいかと思います。文字だけではなく、こういった見目で分かるものを入れていただくことで、キャッチーといいますか、目がいきやすくなるかと思います。もう一つは理念の部分です。「誰一人取り残さない」ということで、ビジョンの2ページにも書いてくださっていますが、少し埋もれてしまっている感じがします。理念が非常に重要だと、この懇談会の中でも何度か出てきていると思います。「誰一人取り残さない」ということがアジェンダの中でも非常に重要視されているということ、また、それが一体どういうことなのかということも入れていただければいいかと思います。UNDPの資料から抜粋したのですが、これを付けていただくとより分かりやすくなるのではないかというふうに考えています。

(酪農学園大学・吉中 厚裕)

目次のところの御意見を飛ばしてしまい申し訳ありませんでした。ありがとうございます。具体的で建設的な御意見をいただけているように思っています。他にどなたかいますか。資料を出していない方からも御意見いただければと思います。1番のSDGsの考え方のようなことが書いてあるところ、さらにこのビジョンの基本的な考え方が書いてあるところで何かご意見ありますか。いいでしょうか。4つの章を単純に割るとそれぞれ15分程の時間があり、まだ時間もありますが。とりあえずよろしいでしょうか。今出てきた意見を私の方で簡単にまとめさせていただくと、策定のプロセスをしっかりと明記すべきということで、その中には開催された5つのグループ別ワークショップを、この懇談会の開催と併せてどこかにしっかりと書くべきではないか。さらにワークショップからの提言を本文の中にしっかりと組み入れていただくか、あるいはそれが難しい場合は、何らかの形で資料として付けるというようなことも検討していただきたいということが一点。それから、ビジネスの「チャンス」というよりも「レスポンスビリティ（責任）」ではないかということ、グリーンウォッシュや生物多様性ウォッシュなどと色々なことがあり、「SDGsウォッシュ」のようなことも出てきてしまうと、諸手を挙げて、今、やっているSDGsの取組を全て推進していけばいいのか、そこには少し不安が残るのではないかというような御意見が一点。それから、SDGsそもそもの哲学といますか、意義といますか、国際的に合意された文言をそのまま本文に、あるいはコラムとしてでも、ビジョンに位置付けていただくのがいいのではないという御意見です。そして、目次のところでは、「(1) 北海道の現状・課題」を「(2) 世界に誇れる北海道の価値と強み」のような形で具体的にもう少し細かく展開していけば、見た目のバランスかもしれませんが、バランスが少し取れるように見えるのではないかというような御意見。他に何かありますか。

(RCE北海道道央圏協議会・有坂 美紀)

もう一ついいでしょうか。資料として提出していませんが、7ページ目の「経済・環境・社会を巡る広範な取組」の最後の文章に、「どちらか」ではなく、「どちらも」を追求することが重要です。」と書かれている部分です。SDGsを進めるにあたって、ここに書いてあるように、相乗効果を生むものも、もちろんたくさんあるということは事実です。その他にも支え合っている、関係性のあるゴールやターゲットというものもある一方で、トレードオフという状況にあるものもあるということが言われています。トレードオフというのは、一方をたてると他方がたたないというようなバランスの悪い関係にあるということです。飢餓の対策のために、農作物をたくさん作ろうとすれば、水が必要になる。しかし、水のターゲットを考えると、水不足の問題があります。どちらか一方を進めてしまうことによって、一方のターゲットあるいは目標が達成できなくなるというような関係もあるので、どちらも追求することはもちろんそうなのかもしれませんが、複雑な関係性にもあるということを書き加えて置かなければいけないと思います。とにかく書いてあること、自分の出来る事をやっておうということになると、破綻してしまうターゲットやゴールもあるかと思うので、そこを言い過ぎないように、少し注意的なことも盛り込んでいただけると、それによ

って、経済・社会・環境というものを同時解決していくということに繋がっていくかと思えますので、その当たり、少し説明を加えていただけるといいかなと思います。

(酪農学園大学・吉中 厚裕)

ありがとうございます。重要なことだと思います。生物多様性と気候変動の世界でも同じようなことが言われていたり、オゾン層の話が昔ありましたけれども、オゾン層のためにとった施策が実は温暖化を加速していたというような、色々なことがあったりします。少し関連したような話しかもしれません。ありがとうございます。他はどうでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、またもし必要があれば戻るといたしまして、次は第2章に進みます「北海道を取り巻く状況」というところで、まず最初に現状・課題という章があり、次に世界に誇れる北海道の価値と強みというふうな分け方になっております。このところで、どの部分でも結構ですけども、ご意見いただければと思います。

(RCE北海道道央圏協議会・有坂 美紀)

すいません。一つ戻ってもいいですか。言い忘れたことがあります。渡邊さんの説明で「(1) 北海道の現状・課題」の3つの分類の仕方について、知らない人でも分かりやすいようにこのテーマを付けたという御説明がありました。非常に良く分かるのですが、3つに分けるのであれば、「環境、社会、経済」になるのではないかと思います。ここにも書いてありますが、SDGsの3つの要素に分けた方が、よりSDGs的なものになるかと思ったところです。そもそも、もう少し変えた方がいいかという意見もありますが。

(酪農学園大学・吉中 厚裕)

それは「(1) 北海道の現状・課題」の構成を少しSDGsの3つの要素に寄せた方がいいということですか。

(RCE北海道道央圏協議会・有坂 美紀)

そうです。そのように分けるのであればということですが。

(酪農学園大学・吉中 厚裕)

わかりました。「生活・安心」、「経済・産業」、「人・地域」の3つということですよ。

(RCE北海道道央圏協議会・有坂 美紀)

3つに分けるのであれば、「経済・社会・環境」かと思いました。

(酪農学園大学・吉中 厚裕)

わかりました。ありがとうございます。その他、御意見いただければと思います。

(中小企業家同友会・清水 誓幸)

「(1) 北海道の現状・課題」の部分ですか。

(酪農学園大学・吉中 厚裕)

第2章の「北海道を取り巻く状況」のところであれば、どこからお話いただいても結構です。

(中小企業家同友会・清水 誓幸)

たくさんあります。9ページ目からの「北海道の現状・課題」の「健康・福祉」についてです。ゴール1について、働きづらい環境や立場に置かれている多様な方々の存在も明記して欲しいと思いました。病気や障がいを抱える人々や、LGBT、女性、ひとり親世帯などを明記してもらいたいなと思います。また、低所得者を減らすことも明記して欲しいと思いました。一般的には300万円以下が低所得者と言われていますが、北海道の市町村別の平均所得を見ると、179市町村の内、130市町村が300万円以下です。こういう現状がある上で、このことについて明記してもらいたいと思いました。ゴール3については、東京都の受動喫煙防止条例を見習って、全ての職場で実現させることが必要だと考えました。受動喫煙防止条例を北海道でも作るということを提案したいと思います。また、外国人労働者の健康と安全を日本人と同等にするべきということもゴール3の中に加えてもらいたいと思います。その他、ゴール8も加えてもらいたいと思いました。「健康を害する長時間労働をなくす」ということをその中で追加してもらいたいと思いました。次に、13ページの「環境」についてです。ゴール11の現状と課題について、課題として、放置された危険な住宅など建築物の処理課題があると思います。過疎化や高齢化が極度に進んだ市町村の持続の在り方を町の人々と考えて取り組むことが必要だということを盛り込む必要があるのではないかと思います。ゴール12について、企業側は過剰包装を減らすこと、フードロス減らすこと、容器など自然に戻せる素材などへの転換を目標とする必要があるということもゴール12に加えて欲しいです。ゴール4は記載されていませんので、加えて欲しいと思います。消費者はゴミが出やすい商品を選ばない、食料残渣が極力出ない食べ方、食料残渣が大量に出る食物を選ばないなど、消費者教育を推進する必要があると思います。そして、ゴール8も入れてもらいたいです。フードロス、製造品廃棄の裏側には、働きがいの搾取となり、労働生産性を下げる労働（原料の無駄遣い、廃棄物処理費用、価値に変わらない労働）などが隠されているため、フードロス、過剰生産、廃棄を減らすことが働きがい、賃金上昇につながると考えます。次に、15ページ目の「安全・安心」についてです。ゴール10に対して、外国人労働者、非正規雇用者、性別など、同一な仕事での不平等のない北海道にするということが明記されていて欲しいです。ゴール16に対しては、フェアトレードを実現したグローバルな社会が必要であるということも明記してもらいたいです。次に、18ページの「農林水産業」です。ゴール3が盛り込んでありますが、労働者が高齢化している農林水産業では、北海道民の食を継続的に供給していただくために、特に働く人々全てが健康であることが大切であるということも盛り込んでいただきたいです。また、ゴール8も加えて

欲しいです。農林水産業に従事している方たち全ての労働環境が一般労働者と同等になることを目指していただきたい。また、ゴール9も追加してもらいたい。上記のためにも技術革新や新たなインフラ（マイレージ）に力を入れる必要があると思いました。次に、20ページの「地域産業と研究開発」についてです。ゴール4を加えるべきだと思います。質の高い教育を受けられることによって、付加価値の高いモノづくり、サービスづくりが実現する基盤産業が必要だと思います。次にいきます。21ページの「中小・小規模企業」についてです。ビジョンにはゴール8しか記載されていませんが、ここの課題はたくさんあります。ゴール8の中だけでも4つあると思います。フェアな利益、フェアな賃金などの健全な経営により持続可能な経済循環に寄与している、または目指している中小・小規模事業者を評価することが重要である。企業数を減らす原因の一つが後継者不足であるが、企業価値を高め、後継者が出る取組が重要となっている。また、RC E北海道道央圏協議会の協働プロジェクトとして、「北海道大学」と書かれているのは、先ほど少し説明したアンケートのことで、アンケートの結果によって、労働慣行に対する意識が低く、実施も進んでいないということが明らかになりました。意識改革、実施が必要とされるということを明記して欲しいです。そして、行政も企業も異動を当然とする習慣の労働環境があるが、単身赴任による二重生活が家庭崩壊を生むなどの課題や、離れた親の介護のための課題などがあり、働きがいを喪失、人材不足の原因になっており、柔軟な労働条件が求められているということも加えて欲しいです。また、ここには、ゴール4やゴール3など、ほとんど全てが加わるとは思いますが、それも全て話していきます。ゴール4について、小中学生の頃より、働くこと、多様な産業、事業の社会的価値や役割を学ぶ機会を授業の中に取り入れる「キャリア教育」の必要性が高まってきていると思います。仕事のイメージが無いままの就職での挫折というものが実際に生まれているということ、就労支援をされている支援センターからよく聞きます。また、キッズニアなどに人気があることも逆として考えられることだと思っています。ゴール3について、仕事に従事する人全ての健康を考えた企業の体制が必要であると思います。ゴール1について、働きづらい環境や立場に置かれている多様な方々やその家族が安心できる労働環境が望まれています。そして、低所得者を減らすということが、ゴール1として、「中小企業・小規模企業」の中に必要だと思います。ゴール5については、性別に分け隔てない、性別されない働く環境が必要であるということ、セクハラのない職場環境が必要であるということ、女性の管理者やリーダーが増える環境づくりのためのジェンダー平等教育が必要であるということ、盛り込んでもらいたいです。ゴール9について、環境負荷が極力無い、技術革新を追求し続ける必要があるということです。ゴール10について、ビジネス対ビジネス、ビジネス対消費者の取引の中の不平等を無くす必要があります。また、労働者への人権意識が低いというアンケート結果を受け、人権意識の向上を図る必要があるということも盛り込んでもらいたいです。ゴール11について、中小・小規模事業者は、社会的責任において持続可能なまちづくりや地域社会に寄与することが必要です。ゴール12も重要だと思います。廃棄物の極力少ない製品づくり、梱包の在り方、残渣の削減、長く使える商品づくりなどの努力を行うことが必要だと書いてもらいたいです。ゴール13について、災害などによる影響を極力減らすため、また、事業の早期復旧のための措置（BCP事業継続計

画)を企業それぞれが取り組む必要があるということも明記して欲しいです。また、「中小・小規模企業」であります。ゴール14について、事業規模に拘わらず事業活動による廃水の成分確認と環境管理をする必要があると盛り込んでもらいたいです。ゴール15について、こちら土壤汚染を意識して確認管理する必要があるということも盛り込んでもらいたいです。ゴール16について、パワハラや遣り甲斐の搾取などが無い職場環境が必要であるということです。ゴール17について、事業のサプライチェーンだけに留まらず、あらゆるステークホルダーと繋がり課題解決のために協力することが必要であるということも盛り込んでもらいたいです。ここまでが「中小・小規模企業」についてです。次に、22ページの「エネルギー」についてです。大手電力会社に依存しない、小規模地域でのスマートグリッドの開発と促進が必要であるということも盛り込んでもらいたいです。次に、23ページの「観光」についてです。ゴール8について、観光客は増えているが、観光地域の平均所得は北海道の中でも平均以下がほとんどであります。地域の人々が潤う観光の在り方が必要であるということも盛り込んで欲しいです。数年間このデータを見ていますが、観光地と言われている登別市や小樽市などの観光都市と言われている市町村の平均所得は、半分以下のところにいるところがほとんどです。ということは観光によって潤ってはいないということです。その地域の人達は潤ってはいない現実をしっかりと見るべきではないかと思っています。次に24ページの「雇用」についてです。ゴール8だけがありますが、この中に、北海道の労働時間は全国平均より長く、所得は平均以下であることは、働く地域としては魅力を感じてもらいづらい環境である。UターンやIターンをしてくれる環境ではないと見られがちであるということです。時間当たりの付加価値の向上を図ることが必要であるということも明記してもらいたいです。また、ゴール5を追加してもらいたいです。ジェンダーによらない平等な就業環境整備が必要であるということも盛り込んでもらいたいです。ゴール11について、地域の多様な働き手を受け入れる環境を整え、雇用を図ることが持続可能なまちづくりに必要であるということが考え方として必要だと思っています。次に「人・地域」についてです。28ページの「教育」です。ゴール4について、貧困家庭であっても教育を受けることが出来る社会づくりが必要であること、社会人になってからでもスキルを付けるための場や仕組みが必要であり、支援と理解が重要であるということ、この2つを盛り込んでいただきたいと思っています。次に30ページの「文化」についてです。ゴール4について、先住民族のことを全ての北海道民が認識する教育が必要であるということも付け加えてもらいたいです。30ページの「インフラ」についてです。70ページにも関連しますが、ゴール9について、北海道の広さ、広さに対する交通量、などを鑑み、交通規制は北海道独自の規制を考え、実施することで、お金を掛けずにインフラ整備の効果を生むことに繋げる(道東、道北地域の住宅や街以外の一般道の速度規制を10キロ上げるなど)。また、仕事において重要度が高くなっているネット環境において、災害時にもダウンしな通信インフラが必要であるということも盛り込んでもらいたいです。以上です。すいません、長くなりました。

(酪農学園大学・吉中 厚裕)

網羅的に見ていただき、ありがとうございます。先ほど有坂さんからも言われていたが、もしかしたら、全体の分類の仕方ということも少し考えなければまずいのかなと御提言を聞きながら考えておりました。さらに、SDGsの17のゴールごとの相乗関係の部分、あるいは少し気をつけないといけない部分など、色々なものがあると思いますが、北海道レベルに落とした時にもそういったゴール間の問題というのが出てくると思います。例えば、中小企業の部分で、「中小・小規模企業」がSDGsについての果たすべき役割は非常に大きなものがあるということは、今の御説明でも理解しましたが、そういうところも含め、どのように整理し直すかということは、少し工夫がいるのかもしれないと思いました。今すぐ結論が出る話ではないですが、他に何かありますか。

(北海道NPOサポートセンター・定森 光)

9ページのゴール1の貧困のところです。パブリックコメントにも出ていましたが、生活保護世帯の数が出ていますが、数そのものがクローズアップされるのはどうかと思います。生活保護というのは、貧困をなくすための制度であって、それを減らすことは目的ではないと思います。むしろ、生活保護を受けられる状態なのに受けてない人の数が多いというのは北海道に限らず全国的にも問題になっていて、補足率と言われているものが大変少ないという問題があります。貧困をなくすという意味で言えば、むしろその補足率を上げるということも重要であって、生活保護の数が多いことはあまり問題ではないと思います。北海道で貧困が多いという、あくまで現象を表しているにすぎないと思います。少し誤解を生みかねないなと思いました。また、課題についてですが、「本道の現状・課題」に書いてあるところは、課題を書いているというより、こういう社会が必要だという目標を書いている、課題の掘り下げには正直なっていないですね。どうして生活保護が、北海道では他の全国と比べて高いのかということの説明をここに書くべきだと思います。同様にひとり親世帯数についても、多いから問題ということではなく、ひとり親世帯が貧困な状態に陥りがちだというのが問題であり、どうしてそうなっているかというところの現状を書き、それに対してすべきことを、この後の目指すべきところに書くべきだと思います。ひとり親世帯や生活保護の数が多いということだけを上げるのは、少し違うのではないかと思います。なぜ、困窮になってしまっているのかという課題をしっかりと書くべきだと思います。また、そもそも貧困というものが何か、北海道にとっての貧困とはどういう人達なのかということをしかり定義しないとイケないのではないかと思います。清水さんの資料にも、300万円以下の人が低所得者と書いていますが、例えば何かの金額などがあるかと思います。道としても貧困対策を何かとっているのであれば何かあると思いますので、そこをしっかり整合性を取って明記した方がいいと思いました。以上です。

(さっぽろ自由学校「遊」・小泉 雅弘)

以前に言ったのと同じことですが、北海道の現状と課題について、北海道という地域の持続可能な開発を考えるには、歴史的な経緯をきちんと踏まえる必要があると思います。今、

言われていたような、北海道で貧困率が多いのはなぜかということとも絡むと思いますが、北海道は、明治になって非常に短いスパンで外から人が入ってきた土地、「開発」が進められてきた土地であるということを踏まえないと、持続可能な開発というものがそもそもどういうものなのか、これまでの開発の在り方とどう違うのかということが説明できないと思います。これはステークホルダーの話とも絡みますが、「価値と強み」の箇所に独自の歴史・文化という形で、アイヌ文化や開拓の歴史について、若干触れられていますが、それが何を意味するのかということを書いていないと思います。価値や強みにも繋がることではありますが、私は基本的なスタンスとしては、この開拓・開発の歴史の中でアイヌの人たちに深刻な打撃を与えたということ、国の有識者懇談会の報告書の言い方を借りれば、「深刻な打撃を与えた」という歴史的な事実を踏まえて、その反省の元に未来に繋がる開発をしていくということが北海道の持続可能な開発のスタート地点だと思います。ですので、ただ単にアイヌ文化をPRするというのではなく、そのことをきっちりと踏まえなければ駄目だと思います。また、価値と強みに、「豊富で多様なエネルギー資源」とありますが、先ほど有坂さんが言われたトレードオフの関係とも少し絡みますが、豊富で多様なエネルギー資源があり、メガソーラーやバイオマスエネルギーの施設の建設が相次いでいるということを単に肯定的に捉えるのは、問題があるかなと思っています。私も少し関わっていますが、現実には、大型のバイオマス発電は時代遅れだというのはかなり専門家の中でも共通認識だと思いますし、メガソーラーにしても風力発電にしても、地元の人たちにとっては、自然破壊の問題や健康被害の問題と絡み、非常に危惧しています。単なる強みや推進すべきことというだけの捉え方では、やはり問題があるように思います。もちろん大枠として、再生可能エネルギーを進めて行くということは必要なことだと思っていますが、その進め方にも少し注意した方がいいと思います。少なくともSDGs、持続可能な開発に絡めて書く上では、そこを注意した方がいいのではないかと思います。

(酪農学園大学・吉中 厚裕)

ありがとうございます。具体的には39ページあたりの話しですね。時間がなくなってきていますが、他に何かありますか。

(RC E北海道道央圏協議会・有坂 美紀)

何度かこの懇談会でも提案があったかと思いますが、17の目標に沿って、現状と課題を書いたものを追加したらいいと思います。清水さんから膨大な提案がでていますが、他のゴールにも関わっている部分が非常に多いなと思っています。これはこれで表現の仕方としてはいいと思いますが、これともう一つ、17のゴールに合わせて北海道にはどういう課題があるのかということがわかるように整理をしたものが付いているといいかと思います。取り急ぎ、今挙げられているものだけ載せて作ったものを提案資料に入れてあります。これは道庁が書いてくださった項目をただ単に並べただけです。「ゴール1については、こういう現状が北海道にはあり、こういう課題がある。」ということが分かる資料を付けられてはいいかかと思っています。このようにすることで、世界のゴールに対して、北海道がどういう状況にあ

るのかということがよく分かると思いますし、後ほど提案させていただこうと思っておりますが、何をしようとしているのかが、世界に対しても分かりやすくなるというふうに一つ思いました。

(中小企業家同友会・清水 誓幸)

私は有坂さんが言われることも十分分かり、そのような配信というのも必要だと思いますが、今回、読み込む時にはこの道庁が作ったスタイルの方が読み込みやすかったというのがあります。ですので、こんなに書けたというのがあります。

(RCE北海道道央圏協議会・有坂 美紀)

両方あった方がいいと思います。おそらく他の人がこれを見たときに、17のゴールではどうなっているのだろうかと思って見ると思います。17のゴールに合わせて、北海道の課題や現状は何かと見たときに、行ったり来たりして見なければいけないのは結構大変かというふうに感じました。

(JICA北海道・野吾 奈穂子)

見せ方としては、17のゴールごとに分けると確かに見やすいという気はしました。ただ、この会議でも議論されている「ダイナミズム」といいますか、複合的に色々な問題が絡み合っているということが見えづらくなってしまふかもしれません。そこは決めの問題だと思います。

(コープさっぽろ・鈴木 昭徳)

私が組合員さんにSDGsの説明をするときには、有坂さんのようにゴール1、2、3と説明していきます。「世界の課題をこうですよ。日本の課題はこうですよ。北海道の課題はこうですよ。そしてコープさっぽろでしていることはこうですよ。」というふうに、17のゴールを順にやると分かりやすいように感じています。ですので、ゴールごとの分け方というのは一つのやり方です。今回のこの章立てで、2章のところに基本データが入っていますが、清水さんから指摘していただいたように、ここが足りないのではないかとこのものは結構ありまして、しかし、それを全部入れると北海道白書のようなものが出来て、それはそれで見てみたいですが、何が重要かということが分からなくなると思います。道庁からビジョン原案をいただいた時に、そもそも国のものはどうなっているのかと思い、国のホームページを見ましたが、もっと大雑把でした。7つの重点課題が書いてあり、その下に単語だけが付いています。KPIも付いていないです。私も自分で書き直してやってみましたが、このビジョンは、国の7つの優先課題をくっつけられるところはくっつけて、5つにされていますよね。まだ進んでいませんが、3章の優先課題のところで、指標をアクションプラン形式で日本語にしていると思いますが、それなりに結構いいものだと個人的には思いました。私でしたら、最初に基本的な考え方をやった後、ゴールごとにするとボリューム感がありすぎるので、国と同じように優先課題を述べると思います。なぜこの優先課題を設定したのかと

いう時に、ビジョンの2章で取り上げているような基本データを並べて、現状はこうだと示します。そこで触れきれなかったが、データが取れているものについては、インデックスでデータとして、まだ他にも残っている課題はこういうものがありますというふうに示すと、それを見た事業者であれば、我が社はこういうやり方ができるというふうに思えますし、道民の方であれば、北海道にはこういう問題があり、自分達には何が出来るのかということが分かりやすくなるのかと思います。ゴールごとの読み込み方は、SDGsがわからない時には大事ですが、実際に、何から着手したらいいかと考える時には、国も優先課題を最初に出しているように、優先課題をまず示すということが伝えやすいのかと思います。本当に課題自体はたくさんあるので、まずは何をすべきか、優先課題が5つあり、北海道ではこのように考えていて、基本的にはこういうデータがある、という見せ方が進め方としてはいいのかというふうに思いました。

(酪農学園大学・吉中 厚裕)

ありがとうございます。既に3章の優先課題の方に入っております。時間も大分押していますので、どんどんいきたいと思えます。今の、現状と課題について、皆さんからいただいたものを簡略にまとめると、課題の認識というのがまだまだ足りないのではないかとということが割と共通した御意見かと思えます。「環境」や「安全・安心」、「中小企業」のところでも、たくさん意見を出していただきましたが、ここに書かれている以外の課題というものもしっかり書いておく必要があるのではないかとということが一つありました。また、SDGsのゴールごと若しくはテーマごとに整理するのかというところで、両者それぞれいいところがあると思えますので、可能であれば、46ページに凄く簡略なゴールと優先課題とのマトリックスみたいなものがあり、本当はこんな単純なものではなく、かなり膨大な表になってしまうのが現実だと思いますが、こういう整理の仕方というのも考えていただければと思います。その時に、有坂さんからは、ゴールごとの整理をした方がいいのではということで、例としてゴール1からゴール3を試しに組み直してみたという御説明をいただきました。その次のページには、「SDGs指標と関連性を有すると思われる道の指標」ということで御提案をいただいておりますが、これはまさに次の章の優先課題・対応方向の方に関連しているものだと思います。ここの構成としては、優先課題ごとに対応方向、「参考となる主な取組例」、「道の主な取組」、そして「指標」というような形で整理していただいております。指標の位置付けをどうするかという議論があると思えますが、それと少し関連した有坂さんの御提案かなと思います。もし良ければ、解説していただいてもいいですか。

(RC E北海道道央圏協議会・有坂 美紀)

鈴木さんがおっしゃったような提案にまさに近いと思えます。コープさんの組合員さんに説明されるときに落としていくというようなところです。道庁から第1回目の懇談会で提出していただいた資料(資料3-2「SDGs指標と関連性を有すると思われる道の指標(2018年7月時点)」)は凄くいいものだと思います。ただ、量が多いので、資料として出すと、見る人しか見ないかもしれませんが、非常によくまとまっている資料だと思います。

すので、是非これをビジョンに付けてもらえると、見たい人はちゃんと見るかなという気がしています。鈴木さんからもあったように、優先課題のどこにあたるのかというところに置き換えるのがいいのかと思います。前に出していただいた資料は、「自治体SDGs指標検討委員会」が提案した指標を表の中に入れていますが、ここに5つの優先課題というのをに入れていただいて、それに対して関連性のある道の指標を書きいただけると、世界の目標、世界のスタンダードに対して、どのように道が取り組もうとしているのかが優先課題で分かって、それに対してこういう指標があるというのが分かるので、見やすくなるのではないかと考えています。ですので、是非付けてもらえるといいかというふうに思いました。

(酪農学園大学・吉中 厚裕)

ありがとうございます。第1回目の懇談会の資料3-2の、非常に細かい字で書かれてある大きな表になりますが、一番左側にSDGsのゴールが並んでいて、横にSDGsのターゲット、さらにグローバル指標の欄があります。さらにその横に、「自治体SDGs指標検討委員会」が提案する指標が書かれていますが、それを無くして、代わりに北海道で検討されている5つの優先課題を入れるのはいかがかということでした。さらに、一番右側には、「関連性を有すると思われる道が各種計画で設定する指標」を入れていただいています。その時には空欄となっているところがたくさんあり、さらに精査すると、空欄のところも埋まってくるのかどうか見えてくると思います。こういう趣旨だったかと思います。いいでしょうか。先ほどの鈴木さんからの御提案とも関連しているかと思い、この表の御説明をいただいたところです。3章の「北海道のめざす姿と優先課題・対応方向」のところでは、「めざす姿」、「優先課題」、そして「課題ごとの対応方向」という形になっています。ここでもまた御意見をいただければと思います。まず、1番の「めざす姿」のあたりで何かありますか。

(さっぽろ自由学校「遊」・小泉 雅弘)

繰り返しになりますが、先ほど紹介したグループ別の「2030年のほっかいどうを考える」ワークショップというのは、基本的にこの「めざす姿」を皆で考えようという趣旨のワークショップです。ですので、43ページにこのワークショップで出てきた提案・意見を反映させて欲しいです。前から「ビジョン」の捉え方が違うという話もありましたが、少なくともこの「めざす姿」というのは、2030年にどういう北海道であるべきかということを示すものであることに間違いのないわけです。ビジョンである限りは、「めざす姿」がビジョンの骨格、中核なわけです。今回、グループ別ワークショップをやったことで、部分的にですが明らかになっているのは、多様な主体の立ち位置、主体によって描く未来の在り方というのは、共通点もちろんありますが、やはり違うということです。その多様な主体で共有する指針にするためには、きちんと多様性を反映させた「めざす姿」にならなければならないと思います。どのように反映させるかというところは難しいところだと思いますが、基本的にはワークショップで出てきたような意見をできる限り反映させて欲しいと思います。もし形として難しければ、別途資料といった形で示すということもあり得るのかなとも思いま

す。前から言っているように、今回のワークショップも部分的な訳ですから、多様な主体が、きちんと本当に共有するためには、この「ビジョン」の部分を考える取組を広げ、そして「ビジョン」を更新していくというプロセスがどうしても必要だと思います。

(酪農学園大学・吉中 厚裕)

ありがとうございます。後半の部分は、次の推進の在り方というところに大きく関係してくるのかもしれませんが、ここで言われている「めざす姿」を道庁の方で「世界の中で輝きつづける北海道」と定めていただいています、ミーティングなどをやっていくと本当に多様な「めざす姿」というのが出てきているというのが実態だと思います。どうやって皆で2030年あるいはその先を目指してやっていくのかという、これからのプロセスの内容というところも、後ろの方になるのかもしれませんが、書いておく必要があるだろうというところと、今回のビジョンについても重要なエレメントの一つとして、色々な主体の方がワークショップを開いたわけですので、その成果をどこかにしっかりと入れていただけるといいのではないかと思います。他に何か、「めざす姿」、優先課題と対応方向でありますか。

(さっぽろ青少年女性活動協会・菅原 亜都子)

優先課題についてです。47ページが分かりやすいと思いますが、優先課題Ⅳの「未来を担う人づくり」の3番目に、「女性の活躍できる社会づくりの推進」とあるかと思います。ここに女性活躍だけではなく、男女平等参画若しくはジェンダー平等も入れた方がいいのではないかと考えています。というのは、28ページの現状と課題では、女性活躍の前に男女平等参画という言葉を入れていると思います。前回の懇談会の時に、私から「ガラスの天井」と「べたつく床」の両輪が必要だということを伝えさせていただきました。やはり女性の活躍推進も大事ですが、前提としてジェンダー平等というのがあります。ですので、ジェンダー平等もしくは男女平等参画があり、それから女性の活躍推進というようなタイトルにさせていただく方がいいかと思いました。国の方でも「女性活躍加速のための重点方針」というものを毎年出していますが、2018年版では、女性活躍推進も引き続き行っていくが、女性活躍推進以前の課題もきちんと解決していくということが盛り込まれています。やはりジェンダー平等というところが2018年らしいかというふうには思っています。ちなみに国の方の「SDGsアクションプラン」の方では、女性活躍のことは「活躍系」の括りに入っていて、女性に対する暴力というのは「安全・安心」の括りに入っています。それも一つのやり方かと思いますが、ビジョンでは、女性活躍が全面に出ている、少しおまけのようにDVやジェンダー平等、女性の人権の問題が後回しになっている感じがしますので、先にジェンダー平等をきちんと実現していくということ、それと同時に女性活躍を進めて行くということ、そういった見え方にさせていただけるといいかと思いました。以上です。

(酪農学園大学・吉中 厚裕)

ありがとうございます。他に何かありますか。

(中小企業家同友会・清水 誓幸)

まず、33ページの「魅力となる雪や寒さ」の「本道の価値と強み」というところで、観光業について書かれています。先ほど僕が話したと重複しますが、観光業の付加価値額が変わるような施策をとっていかなければ、働いている人達の豊かさ、観光地の経済成長、観光地の投資も進まないのではないかと思いますので、この辺のことをもう一度考えていただけたらと思います。次に50ページです。ここで思ったことですが、指標の中で犯罪者について書かれています。刑務所出所者の就職率や刑務所出所者の就労支援の確立の現状と目標が必要だと思いました。検挙率などというのは、「誰一人取り残さない」というところと少し趣旨が違っていると思いますので、そういうことが見えるような指標を書き添えていただきたいと思います。次に51ページです。「参考となる主な取組例」の1番目の企業の部分ですが、先ほども言いましたように、人権意識が低いということがアンケートでも出ているので、何をもち出したのか分かりませんが、出来れば取り下げた方がよろしいかと思いました。また、指標の中には、色々な人権侵害の事件数のことが書かれていますが、労働局などへの相談内容や相談件数も指標に加えてはどうかと思いました。労働局にはそのような相談窓口がありますから、そういうところからも情報をいただきながら、相談というものが減るような社会を作っていくことが求めるものではないかと思っています。次に54ページです。ゴール4を追加して欲しいと思います。安心して働ける会社を選ぶ能力を身に付ける教育が必要だと思います。道の主な取組の3つの括りの1つ目と3つ目に対して、どれだけの相談件数があるか、相談内容はどのようなものなのか、成果はどれくらいあるのか、課題はあるのかなどを示していただきたい。知りたいと思いました。北海道の障がい者就労支援の窓口の企業の利用数や障がい者の利用数、相談内容、成果、課題を知りたいと思いました。こういうことを知っておくことで、企業側はどういう問題が起きているのかということを知って、障がい者雇用を促していくということにも繋がりますので、そういう見方が出来る情報を提示していただきたいと思いました。次に優先課題Ⅱになりますが、56ページです。ゴール4を追加してもらいたいと思います。自然を保護する重要性を子どもから大人まで継続的に伝えることが重要であると思います。指標として、まだまだ不法投棄が北海道のあちこちで見られています。不法投棄されているゴミの現状と目標値を設定するべきではないかと強く感じるところです。次に58ページです。「参考となる主な取組例」の企業の部分に、メガソーラーなどの大規模発電施設と書かれているところがありますが、これは是非とも取り下げたいと思いました。先ほど小泉さんも言われてましたが、メガソーラーなどの大規模発電をこれからも推進するのかというふうにとらわれがちです。大企業への依存や大規模開発からの脱却が望まれている社会となってきていますから、そういう目線で考えた場合に、この例は載せない方がいいのではないかと思います。次に60ページです。「参考となる主な取組例」に、NPOや市町村、教育機関、道民の取組として、「「エシカル消費」や「フェアトレード」などの持続可能な生産と消費に関する消費者教育を積極的に推進」ということも載せてもらいたいと思いました。また、指標としてなぜ出てこなかったのかと失礼にも思いましたが、食品ロスの現状と目標の設定が必要ではないかと思っています。大事な課題だと思っています。次に64ページです。「地域産業の創造やイノベーションの創出」にゴール

4を追加してもらいたいです。地域産業の創造やイノベーションを創出するためには、付加価値を創造する教育が必要であると思います。「参考となる主な取組例」としてあげてもらいたいと思うのが、B to B、B to Cのどちらにおいても取引ルールを明確化し、互いに守ることによって、生産性の向上とか従業員のストレス減少、イノベーションの創出、所得の向上に繋がっているというような例がありますので、その取引ルールを全てお客様側の目線でなければ取引されないという社会、過剰なサービスでなければ売れないというような社会から脱却するというのも重要だと思います。そうしなければ、働いている側にはストレスが続きますし、イノベーションは生まれませんし、所得は上がらないと思います。そのような目線も必要なのではないかと思います。実際にそういう例もあります。指標としては、中小・小規模事業者のITの利活用の現状と目標を数値化する、設定する必要があると思いました。66ページで最後ですが、ここにはゴール3、4、5を追加していただきたいと思います。指標が開業率だけになっていますが、開業だけが振興ではないと思います。企業の継続率の現状と目標を設定してはどうでしょうか。継続がどれだけされているのか、継承がされているのかということがまず一つです。もう一つは、継続年数です。3年以上継続している、5年以上継続しているということを分けて指標として見ていく。継続していなければ、新しいものが出来ても、何の意味もありません。その辺をしっかりと見ていく、進めていくということを実現してはどうかと思いました。以上です。

(酪農学園大学・吉中 厚裕)

ありがとうございます。予定していた時間まで、後7分程ですが、もし良ければ15分程伸ばしたいと思います。どうしても16時に次の御予定があって帰られるという方はいらっしゃいますか。大丈夫でしょうか。15分ではなくもう少しなら大丈夫という方がいらっしゃいましたら、順番を飛ばして後ろの方のパーツでも構いませんので、御意見をいただければと思います。いいでしょうか。では、戻ります。指標の話も出てきておりましたけれども、その当たりも含めて、御意見があればお願いします。

(さっぽろ自由学校「遊」・小泉 雅弘)

今の清水さんのお話とも絡みますが、パブリックコメントの意見を見てみると、結構いい意見があるなと思っていて、指標に関して、「指標の位置付けが不明です。達成しても優先課題の解決に繋がる指標になっていないと考えます。」というのがありました。何を指標とするのかというのは結構難しいと思います。本当にその指標が達成されれば、目標が達成されると言えるのかということ。どう考えても、ここに出ている指標だけでは何か計れるとも思えないですし、そもそもこの指標がその目標に繋がるのかというのは、見方によってはクエスチョンのものが結構あるように思います。また、パブリックコメントで書いてあったのが、目標が中途半端で、ゼロを目指すべきだといった意見や少し志が低いのではといった意見があったと思います。これは前々に有坂さんが言っていたと思いますが、指標をいま「ドン！」と打ち出すのは無理があるのではないかと考えていて、「参考となる指標」や「主な指標」のような、ごまかしではないですが、そうした方がいい気がします。やはり、

指標を練るプロセスはこれから必要な気がします。「これが指標なのか」と疑問に思ってしまう指標は、先ほどの開業率の話のように、色々あると思います。これをそのまま指標として出すのはなんだか危険だと思います。

(JICA 北海道・野吾 奈穂子)

指標に関しては、JICAとしても意見を出したところですが、例えば77ページで、JICAの事業に関連した国際協力の関連でいうと、ここに書かれている取組の例が、多文化共生メインで書かれています。道内でも多様な主体の方が国際協力・交流にも関わられているので、その事例も書いていただきたいということと、やはり、指標の「外国人居住者数が増える」ということがすなわち「国際協力や多文化共生の推進に寄与する」というロジックにはなっていないと思います。以前、指標の位置付けについて御説明いただきましたが、私はまだ少し納得できていないところもあります。せっかくなので、「この指標を達成したらここに貢献する」というのが分かりやすい、入手可能な指標を設定いただけたらいいのではないのかと思っています。

(酪農学園大学・吉中 厚裕)

ありがとうございます。その他に何かありますか。

(コープさっぽろ・鈴木 昭徳)

今年度中にKPIを設定するのは無理だということは、皆さん共通した認識で、ただ何も数値がないというのも、ということで、今までに道の各部署が設定している数値目標を入れているものですね。ですので、道庁も該当するものがなくて、多分おわかりになっていると思いますが、少し無理矢理入れているところがあるのは、読んでいてすぐ分かります。ただ、現時点ではこれでいいと思います。ただ、SDGsのKPIなので、ゴールはやはり2030年に設定するのが筋です。2030年までに何をするのかということを決めるのは、今年度は無理なので、いつまでに設定するということを示した方がいいと思います。まず優先課題ができて、それを各部署の方でしっかり課題として消化していただく、なにぶん予算も必要な案件なので、ただいきなり考えてと言っても、ネタが何もないと各部署も困ってしまいます。「現状、あなたたちの部署で出しているデータはこうですよ、これはあくまで参考数値です。」と示すといいと思います。これをそのままKPIと言われると、おそらく詳しい人からはたたかれるとは思いますが。ですので、現時点ではあくまでもKPIを設定するにあたってということにして、誤解されないようにする必要があり、かつ、きちっとしたKPIは、何年までに提示するということを言ってあげると余計なバッシングはないのかと思いました。

(酪農学園大学・吉中 厚裕)

ありがとうございます。今後のプロセスのところにも関連してきています。先ほど小泉さんの方からも御意見ありましたが、これから指標づくりというのをしっかりやっていかなければ

ればいけないのではないかとということです。あるいは今回のプロセスがあまりに時間が足りなく、プロセスが不十分であったという認識であれば、これからの推進の時に、その認識をできるだけ踏まえていいプロセスにしていく、具体的には、指標づくりを広範な方の参画を得て行っていくプロセスがもしかしたら必要で、それに繋がってくるような御意見だったかというふうに私は理解させていただきました。更に指標そのものについて、野吾さんがおっしゃっていましたが、77ページの国際協力の指標が外国人居住者数というのは、あまりにも合っていないという感じがしますので、指標の取り扱いを少し考えていただければいいのではないかと思います。前回か前々回あたりの道庁からの御説明で、今ある指標でなければ載せられない、今日目標値がはっきりしているものでなければ載せられないというお話がありました。そもそもそれが無いということがSDGs、優先課題を達成するにあたっての一番の問題ではないかという認識を持っています。例えば、グローバルな指標というのがありますが、全てが北海道で対応するわけではないですし、また、それ以外の北海道ならではの指標というものを考えていかなければいけないと思います。出発点としてはグローバルな指標で、北海道でも当てはまる考え方かどうか、実際に指標になり得るものがあるのかどうか、そういうところの整理を少ししていただくとうかがっています。先ほど、有坂さんからも出ていた大きな表のところで、空欄となっている部分がありますが、空欄のままでもいい部分もあると思います。北海道には関係ありませんというような。大部分は関係すると思いますが、北海道の特性を考えて、北海道ならではの指標をこれから作っていくというのが必要なのかと思いました。他に何かありますか。

(RCE北海道道央圏協議会・有坂 美紀)

同じことを提案書の中で書かせていただいています。「北海道のめざす姿と優先課題・対応方向」について、指標を外すか、若しくは「参考指標」や「主な指標」という表記に変えることが必要かと思っています。鈴木さんがおっしゃっていたとおりだと思いますが、無理矢理載せているというところもあると思いますし、これだけではないということは道庁も御理解されている、分かった上で掲載されているとは思っています。これだけではないということをしかりと明記しておくということが必要かと思っています。この指標だけ達成すれば、この優先課題が解決するという誤解を招く恐れがあるので、誤解がないようにクリアにしておく記載が必要かと思っています。指標として残さないとなんとなく違和感があるということであれば、グローバルインディケータも一緒に記載して、関係する部分分かるように載せることも必要かと思っています。まさに鈴木さんがおっしゃっていた、目標年を2030年にするというところは、本当にそうだと思っていて、色々な御事情があつて目標年がばらばらだということは理解しています。2030年までになっていないものがほとんどだと思いますので、次の目標を立てるという機会には、少なくとも2030年に設定するということを図って統一するということがされてはいかかかと思っています。皆さんがおっしゃっているように指標を作るといふこと、ないものに関しては今後作っていくということが必要かと思っています。その際には多様な意見がちゃんと反映されるよう、専門家の方達と一緒に作っていただくことがよろしいのではないかと思います。

(酪農学園大学・吉中 厚裕)

ありがとうございます。4章の方に入りかけておりますが、道庁の方で今ある指標、あるいは関係部局が策定されている関連しそうな指標で年度が違ってもの、そもそもサイクルが違うものなど、色々あるとは思いますが。そういうのについても、ビジョンを見てみると、82ページの「道としての取組」の2つ目に、それを目指しているような書きぶりがありました。「各種計画等の策定や改定に当たり、ビジョンの内容やSDGsの要素の反映に努め、ビジョン推進の実行性を確保するとともに、道政におけるSDGsの主流化を図ります」と書いてあります。これが同じような方向を向いているかとも思いますが、既存の道主体で作られている計画や目標の改定に、是非、このビジョンの考え方あるいはグローバルなSDGsそもそもの考え方をしっかりと入れていただいて、道庁全体の取組に繋がっていくといいなというのが一つです。また、今はないけども、やはり作らなければいけないというような計画や指標・目標というものも考えていかなければいけないという気がします。最後の方に入っていますが、3章、4章含めて、ビジョンの推進という当たりで皆さんから御意見いただければと思います。

(北海道環境パートナーシップオフィス・大崎 美佳)

「4 ビジョンの推進」について、1枚の紙を出ささせていただきました。ビジョンに対する提案というものです。「(3) 推進管理」について書いています。下の表には、文章をこのように変えてはどうかという御提案をしております。ここに書く背景にいたっては、ビジョンの原文の中に「必要に応じて指標とかビジョンを見直す」と書いていますが、必要に応じてではなく、具体的にどのように見直すのかということを書いて欲しいと思っています。今回、5回のワークショップを実施した中で、やはりグループごとで全く違う視点を持っているということが明らかになったと思っていますので、グループ別の意見交換の時期を年に1回は設けていただきたいと思います。また、指標をなくするという話もありましたが、指標を残すのであれば、指標がどうなっているのかという報告とそれに合わせた意見交換会を年に1回はやっていただきたいと思います。その際には、国連が提唱する9つのメジャーグループと、その他利害関係者という3つのグループがありますが、道内各地に振興局がありますので、振興局ごとにやっていただきたいと思います。それらの意見を踏まえて、例えば2021年、3年後に向けて、意見交換の場を重ねて素材を集めて、ビジョンの「めざす姿」や各種項目に合わせた指標の設定の見直しをするということを是非明記していただきたいと思います。

(さっぽろ自由学校「遊」・小泉 雅弘)

私も事前に出した資料の、ワークショップの趣旨と概要の後に、実施を踏まえた提案ということで、主にこのビジョンの推進のところについての意見を書いています。一つは、「(1) 各主体の取組」について、前から何度も言っていますが、各主体の捉え方というところで、国連のメジャーグループなどを下敷きにした形にして欲しいと思います。道民というのはあってもいいと思いますが、具体的には、やはり、女性、アイヌ民族、ユース、CS

〇といった、今回ワークショップを行ったグループは、少なくとも各主体として位置付けて欲しいです。私はほぼ一つのことしか言っていませんが、各主体が参画するプロセスが重要だということと、ここにきちんと主体として位置付けるということは連動しているので、ワークショップの結果を反映させるということもそうですし、これからのプロセスに反映させる意味では、きちんと各主体の在り方として明記して欲しいということが一つです。それから、「(2) 推進手法」のところでも、多様な主体の連携・協働というのがありますが、むしろ「道としての取組」のところにも、道がきちんと9つのメジャーグループやその他のステークホルダーのようなグループの参画や連携・協働をするということを明記して欲しいと思いました。そして、次はほぼ大崎さんが言った提案と同じです。今後のプロセス、モニタリング、フォローアップにおいて、多様なグループの意見を反映させるための場を作るということをやって欲しいと思います。配布している参考資料に、2030アジェンダから多様なステークホルダーの関与が書いてある部分を抜き出して書いてありますが、メジャーグループはちゃんと参加するということや、多様なステークホルダーについて、2030アジェンダの中でもきちんと書かれているわけです。ですので、レビューやフォローアップにちゃんと参加するということをきちんと書くと、「北海道、やるな」と思われると思います。ついでなので、ビジョンの推進ではないですが、以前から道の人にも、実際にSDGsのことがまだまだ知られていないので、PRしていくことが重要だと言っていたと思います。そのことは私もその通りだと思いますが、SDGsそのものを分かりやすく解説するものは既に結構出ていますので、各主体に沿った形で作るというのは一つ大きいことかと思っています。例えば、「SDGsとジェンダー」、「SDGsと子ども達」、「SDGsと外国籍住民」、「SDGsと障がい者」など、今回のグループ別ワークショップの結果でも分かると思いますが、それぞれの視点からSDGsの目標に関わる課題や目標というのは導き出せると思います。正直、このビジョンは誰が対象なのか、誰に読ませたいものなのかがあまり分からないところもあり、皆さんあまり読まないだろうと思うところが正直あります。これはこれで、ベースとして作っておくということはとても重要なことだと思いますが、SDGsを北海道の中で広めていく上で、それぞれの課題を知らせるといっても含めて、もっと分かりやすいものを作ればいいかなと思っています。宣伝にもなりますが、さっぽろ自由学校「遊」で、先住民族の課題とSDGsを絡めたパンフレットを作成しましたし、また、ダリットという南アジアのアンタタッチャブルと呼ばれる人達の課題をSDGsの5つくらいの課題と合わせて紹介した冊子もあります。こういうものがあると普及啓発の面ではいいのかなと思います、一つの提案です。

(酪農学園大学・吉中 厚裕)

ありがとうございます。その他何かありますか。柏村さんありませんか。

(Ambitious Farm・柏村 章夫)

全体的なところはあまりピンとこないのですが、農業で直結する部分でいうと、清水さんもおっしゃっていましたが、複合的に絡んでいる要素をどこまで入れるのかというところは難し

いなと感じたのが一つです。また、少し戻ってしまいますが、優先課題の「北海道の価値を活かした持続可能な経済成長」のところで、農林水産業のことが出ています。ジェンダー、女性活躍のことをダイレクトに入れるのがいいのかどうかという議論はあるかもしれませんが、今、農業界において、付加価値を付けるというところで、販売などの生産以外のところでの女性の活躍が業界自体にも凄く影響を与えているなど僕自身が感じているので、ここにゴール5が入ってもいいのかなというふうに感じていました。また、「参考となる主な取組例」について、農業者は家族経営が多いので、書き方でしかないですが、団体や企業という書き方だと、少し自分事に落とし込みにくいかなと、表現方法のところで感じました。また、せっかく「道の取組例」でGAPについて触れられているので、初めのスマート農業などについて書かれているところでも、GAPについて触れてもいいのかなと思いました。労働安全、働く人にとっての規格というものがGAPでは取り組まれていて、業界にとってもいい印象なのかなと私自身は思っているため、入ってもいいのかなと思いました。以上です。

(酪農学園大学・吉中 厚裕)

ありがとうございます。貴重なご意見だと思います。

(JICA 北海道・野吾 奈穂子)

ちなみに、先ほど有坂さんから提案されていたゴールごとに整理するという意見について、抜き出した表までは難しいかもしれませんが、出来ればゴールごとの索引みたいなものがあるとたどりやすくいいなと思いました。

(コープさっぽろ・鈴木 昭徳)

ゴールごとにまとめる時に、世界で起きていること、日本で起きていること、北海道で起きていることというのを書いていただくと、ストーリーとして頭に入りやすいです。「飢餓がゼロに」とありますが、日本において飢餓で亡くなる方は、ゼロではないと思いますが、あまりいないと思います。ただ、「世界では何百万人という方が亡くなっていて、日本でこういう状況で、北海道ではこういう状況です。実際にはおそらく北海道において飢餓で亡くなっている人はいないと思いますが、相対的な貧困の問題があり、だから食品ロスを半分にする活動をしないとイケないです。」というようなストーリー仕立てにした方がいいと思います。今回のビジョンでは、SDGsに関連したKPIを示すことができないので、優先課題を設定するにいたった仮定を丁寧に、世界、日本、北海道の比較で示すと、まずスタートラインにたったというところ、それだけでも凄いことだと思うので、これは是非やって欲しいです。ぱらぱらと見ていても、世界で何が起きているかという問題は触れられていないところが多いと思いました。SDGs自体は国連で決めたものなので、世界の課題、日本の課題、北海道の課題、そして我々にできること、というような説明があると読んでいても分かりやすいと思いました。

(酪農学園大学・吉中 厚裕)

ありがとうございます。先ほど私の方からも言いました、グローバルなインディケーターと北海道のインディケーターの比較、当てはめのようなことを検討される中で、今の意見も整理できるのかなという気がしています。例えば、貧困の部分ですと、「貧困をなくそう」というゴール、ターゲットがあり、その下にグローバルなインディケーター、例えば、各国の貧困ラインを下回って生活している人口の割合がありますが、このラインは北海道で決めればよいと思うんですね。先ほど所得が300万以下が低所得者というような色々な御意見が出ていましたが、一体どのくらいのラインで北海道が目指していくのか、あるいは飢餓で亡くなっている方が北海道でどれくらいいるのか、また、「貧困をなくそう」ということでいうと、社会保障制度によって保護されている人口の割合や10万人当たりの災害における死者数など、色々なものが出ていて、その北海道版というものを、やはり何か考えていく必要があるのではないかという気がします。それをやっていく中で北海道と世界との繋がりというものももう少し強く見えてくるのかなという気がしました。他に何かありますか。

(中小企業家同友会・清水 誓幸)

今日は6ページにもわたる意見書を書いてしまいました。自分も道庁と一緒に協働作業者の一人だと思っています。ですので、時間がない中ですが、ビジョンをしっかりと読み込みさせていただき、これだけの意見が自分の中から出てきました。別に考えて出てきたわけではなく、すんなりと出てきただけのことで、まだまだ皆さんから色々なことが出てくるのは間違いないと思います。そういう自分達も他の人達も協働作業者として、読み込んだら意見が出てくるような仕組みづくり、また、その中で公表、公開していくということも重要なのかと思いました。私も一つの組織から出向で来ていますから、そういった責任というものもあり、これと向き合うというのが自分の課題でありましたので、貴重な機会にもさせていただきました。ありがとうございました。

(酪農学園大学・吉中 厚裕)

ありがとうございました。すっかりまとめていただきました。皆さんから本当に貴重なご意見をたくさん賜りました。私も勉強させていただきました。この後のプロセス、最後に御説明いただくかと思いますが、是非、原案から最後の案に、これから御苦労されると思いますが、今日出てきた意見、紙で出された意見、そして、今までも、こういう形でテキストが出てこなかったのが具体的な意見として中々言えませんでした。凄く貴重な御意見を皆様からいただいていますので、最大限活用していただいて、いい最終案を作っていただければありがたいなと思います。どうしても不十分な部分が残るということであれば、次のプロセスに繋がるような仕組みを作っておく、次はもっと多様な方の参画を得て、もう少し時間を掛けてやるというように、次に繋げていただければありがたいと思います。他に何かいい足りない方はいますか。

(RCE北海道道央圏協議会・有坂 美紀)

皆さんがおっしゃったところは省きますが、道庁だからこそできることがたくさんあると思うので、そこについて、少しいででしょうか。今後の話しになりますが、SDGsは非常に複雑ですので、道庁さんが主体となって勉強会をやっていただけるといいかと思います。そこに私たちも参加できるような形で、もちろん定期的に開催するというのをしていたけるといいかと思います。また、小泉さんの方からもありましたパンフレットを作るということも、中身については、非常に皆さん言いたいことが色々あると思うので、作る時には是非、多様な意見を盛り込むような作成プロセスを踏んでいただきたいと思います。また、自治体の支援についてですが、まさに道庁でしかできないことだと思えます。北海道から各市町村へのサポートするような仕組みがあると思いますが、サポートする際に、SDGsの要素を入れ込むということをしていただけるといいかと思います。その他、年に1回、情報共有の場を作りたいというお話がありましたが、振興局ごとに多様な主体が参加して、北海道をどうしていくかということ意見を交換できるような場を作っていただけるとありがたいなと思います。また、今回出させていただいたアンケート結果がありますが、そういったものはかなり専門的な部分になるかと思えます。今回、道庁と札幌市、中小企業家同友会と色々な人に協力していただき、このアンケートを実施することができています。こういったデータを収集するというのは、単体でやるのではなく、専門性を持つ多様な主体と一緒にやる必要があるかと思えますが、それを自治体に対して、データの取り方などの支援をしていくようなことがあってもいいのかなと感じております。やはりデータがないと指標が作れないという話しが大分出てきたと思うので、その辺のサポートは道庁もなされたいかかと思えます。専門家の人達もたくさんいて、いくらでも知識を提供して下さる方達だと思うので、一緒にサポートするような体制が作れるいいかなと思います。最後に、アジェンダの結語を記載してもらえたらいいなと思い、提案資料の最後にも書きました。ビジョンの最後にSDGsをやるということが我々全てのためになるということが記載されていると、自分達のためになるということがメッセージとして伝わりやすいかなと思うので、こういったものをつけていただけるといいかなと思います。

(酪農学園大学・吉中 厚裕)

皆さんいいでしょうか。貴重な時間ありがとうございました。皆さんに配られていると思いますが、北海道国際協力フェスタのチラシとSDGsアテンション、朝日新聞の冊子が配られています。すいません、御紹介する時間がなくて申し訳ありません。是非ご参加ください。では、今日の御意見、今までの御意見を是非参考にさせていただいて、皆がいいなと思う最終案になることを期待して事務局にお返ししたいかと思えます。ありがとうございました。

(渡邊計画推進課主幹)

一点、その他ということで、今回残念ながら都合で来られなかった下川町の木原課長から意見をいただいております、道央圏以外の地域の声はどうなのかという意見もありましたので、

我々の方で、道北、道東、道南の方を回って、企業や団体、または自治体の方と意見交換してこようと思っています。それらの意見も最終案に向けて、参考としていきたいと考えております。

(酪農学園大学・吉中 厚裕)

すいません。その他がありました。他、その他の事ではありませんか。

(さっぽろ自由学校「遊」・小泉 雅弘)

自由学校「遊」で、10月26日から、「企業と人権－SDGs時代のビジネスに求められるもの」というテーマで連続講座をやります。1月25日には清水さんに講師をお願いしていますが、今、CSRというところからもう少し進んで、企業に人権尊重ということがかなり大きく求められる時代になってきているということで、そのことをSDGsと若干絡めながらやりますので、学習会という話しもありましたが、是非、「遊」にも来てください。

(酪農学園大学・吉中 厚裕)

ありがとうございます。他に何かありますか。せっかくなので国際フェスタについてどうですか。

(RCE北海道道央圏協議会・有坂 美紀)

RCEのメンバーでもありますが、北海道NGOネットワーク協議会が主催、JICA北海道さんが共催のイベントが12月15日に開催されます。テーマが「私たちがSDGsです。」ということでやっていますので、是非参加いただければと思います。

(JICA北海道・野吾 奈穂子)

最後に告知だけ。11月10日、11日で「SDGs×コミュニティアートキャラバン」が開催されます。主催は北海道club、道庁も後援。11日にJICA北海道オリジナルのSDGsテーマソングを歌う予定です。以上です。

(酪農学園大学・吉中 厚裕)

ありがとうございます。以上で議事の方は終わりということで、事務局にお返しします。

(石川計画推進課長)

本日も長時間にわたりましてありがとうございました。時間も経過していますので、簡単に申し上げますけれども、いただいた意見を踏まえまして、我々も最終案に向けて作業をすることになります。今日、この場でもお聞かせいただきましたけれども、また個別にも相談させていただく場面が出てこようかと思っておりますので、その節は是非よろしく願います。次回ですが、できれば12月くらいに開催したいなと思っています。また改めて御相談をさせていただきたいと思っておりますので、是非よろしく願います。本日はこれをもっ

て閉会をさせていただきます。ありがとうございました。